

防災教育・周知啓発ワーキンググループ 防災教育チーム (第1回) 議事要旨

1. 日時

令和2年12月18日(金) 13:30~15:00

2. 出席者

片田座長、畦地委員、江口委員、加藤委員、橋爪委員

関係省庁〔内閣官房(国土強靱化推進室)、消防庁、文部科学省(総合教育政策局)、国土交通省(水管理・国土保全局)、気象庁

小此木防災担当大臣、赤澤副大臣、村手官房審議官(防災担当)、内田官房審議官(防災担当)〕

3. 議題

(1) 開会挨拶

(2) 防災教育・周知啓発ワーキンググループ 防災教育チームに関する概要と論点等について

(3) 意見交換

(4) 閉会

4. 議事要旨

赤澤副大臣から、正常性バイアスに陥らない避難行動やボランティア活動の促進に向けた、防災教育の拡充、地域コミュニティの取組などの方策を検討するとの趣旨説明があった後、各委員からいただいた主なご意見は以下のとおり。

- 「国民1人1人がしっかり災害に対応することができるのか」が重要。
- 防災教育を単なる知識教育に留めるのではなく、地域に「育みの環境」をつくり、10年先の地域で活躍する大人を育て、地域から犠牲者を出さないプロジェクトとして防災教育を位置づけてほしい。
- 防災教育の充実化は教育現場の負担増加に繋がると予想されるが、黒潮町の大部分の先生方からは「負担ではない」という回答であった。
- 防災教育をとおして子供たちが主体的に成長していることに先生方は喜びを感じているのだと思う。
- 先生・子ども達・地域・保護者・行政がワンチームになることで子ども達の命を救うことができる。釜石では地域全体で逃げる子供を育むことができていた。これを目指さないといけない。
- 地域の教育力が高いと災害にも強くなる。学校と地域が連携した災害にも強いコミュニティづくりが重要であるが、学校側からのアプローチが中心で地域側が受け身とな

っていることが課題。地域のリーダーを育成し、学校と地域を結びつける中間支援組織が必要。

- 災害に関する課題を自分目線・地域目線で捉え直し、将来にわたって安心して暮らせるように、自らがその安全システムの一部になって主体的に関与していく市民を育成することが重要。
- 防災教育だけではなく、当たり前のことを当たり前に教える学校教育全般、心の育成が重要。
- 子供達にもわかる防災情報のあり方を考えることが重要であり、新たな目線を防災教育コンテンツにも反映できないか。
- 災害について主体的に考えること、体験してもらうことが大切であり、新しい仕組みが必要。
- （自分にとって大切な）「他人」のことになると、「自分」のこととは正反対に、事態をより悪く考える（杞憂する）傾向性も、人間は同時に持っており、この「心配性バイアス」を上手に使うことが「正常性バイアス」の克服において重要。
- 自分たちが「助かる」ことを越えて、周囲を「助ける」、そしてみんなで「助かる」ことを目指した防災教育を検討すべき。
- 防災の授業に効果的な教材（各種災害に応じた手引き等）があると良い。良い教材があれば、少ない時数でも児童生徒の記憶に残すことができる。
- 信念と情熱をもった人の育成を促進するための仕組みづくり、サポートについて検討すべき。
- 災害には地域性があることも重要な要素。
- 災いに対して恐れるだけでなく、しっかり備えて自然の恵みを受け取りながら生きていこうという考え方が重要。
- 正常性バイアスの解消には周辺環境の整備が重要。危険が迫っている時にいち早く動いた人を馬鹿にするのではなく称賛するような雰囲気づくりやモチベーションが必要。また、ちょっとした感謝をしてもらうことで、「イヒ」と感じてもらうことも大切。
- これまでの防災の取組や論点に今までとは違う工夫を加えて取り組んでいくことが必要。